

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		百貨店（販促担当）	・低迷が続いていた婦人雑貨部門、特に衣料品部門の売上が伸びてきている。また、購買を促す提案に対する反応がよく、客足が戻ってきている。
		百貨店（経営者）	・前年にはなかったイベントを行う予定があり、集客、販売の増加が見込まれる。
		衣料品専門店（店長）	・今の時期、婦人服はなかなか数字につながらないが、秋も深まってくれば単価も上がっていくことが期待される。
		家電量販店（店長）	・家電エコポイントの終了が年末に予定されており、駆け込み需要が期待できる。
		高級レストラン（支配人）	・向かいに新規開業したホテルの影響により変わった人の流れの効果はもう少し継続することが予想される。ただ、円高と不安定な現政権の影響など懸念材料もある。
		その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・12月の新幹線の延伸開業に向け、各自治体のイベントが増えてきており、集客増が期待できる。
		観光型ホテル（経営者）	・2～3か月先の予約状況を見ると、前年よりも団体客、特に関東以西の客の予約が目につく。
	住宅販売会社（経営者）	・建築物件の受注は大変好調である。一方、個人向けの住宅の受注に関しては成約に至るまでの期間が長くなっており、今後、新規受注の伸びが期待されるのは3か月ぐらい先になってからである。	
	変わらない	商店街（代表者）	・シャッターが上がるような話が聞こえてきてもなかなかそのとおりにならず、逆に閉店のお話さえ聞かれ、中小零細小売業界は打つ手なしの状況が続く。
		商店街（代表者）	・このまま暑い日が続けば、秋物商材に大きな影響が出てきて、場合によっては、秋物商材がそっくり抜けて、冬物の売り出しが始まることも懸念される。また、バーゲンの前倒しが著しくなり、客単価の低下は免れない。
		商店街（代表者）	・婦人服を中心に秋物がだぶつき、好調な夏物と不調の秋物で相殺勘定になることが予想される。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・地元の産業基盤は、工業系は弱小で流通系の中小企業比率が高いことから、価格競争力といった面での伸展はあまり期待できない。
		一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	・客が必要な物しか買わない現在の状況は、今後も続くことが予想される。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・残暑により体調不良の人が多くなる時期だが、不景気という意識が非常に強いいため、お金をかけて体調管理をする人は少なく、売上には貢献しないと予想される。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・景気の良し悪しにかかわらず、必要なものは購入してもらえざる業種だが、以前のように何でもというのではなく、必要なものしか購入しない現在の状態がしばらく続く。
百貨店（企画担当）		・為替は円高基調で推移しているため、内需の拡大を大いに期待しているところであるが、GDPは簡単には増えないので、このままの消費状況が続くことが予想される。	
スーパー（経営者）	・暑さが続けば、野菜果物の生育と秋商戦の販売への影響が懸念される。		
スーパー（店長）	・8月の収支結果が良かったのは猛暑の影響だと思われるため、10月以降は好調の波が続くとは思えない。景気そのものの変動はないと予想している。		
スーパー（店長）	・売上がプラスになるような要素が見当たらない。		
スーパー（店長）	・猛暑により、水産物、農産物共に前年と全く違う動きをしている。さんまは前年の50%を下回る売上高のため、今後の漁獲量によっては販売商品を再考しなければならない。		
スーパー（総務担当）	・残暑が10月まで続くとの予報もあり、農水産物などへの悪い影響が、生鮮食品の品質悪化と単価アップにつながることに懸念され、エコカー補助金等の景気政策の効果も薄れることから、消費動向はしばらく変わらない。		
コンビニ（エリア担当）	・現在の好調は天候に依存したものであり、消費者の買い控え意識には変化が見られない。		
コンビニ（エリア担当）	・本県の人口減少による購買力の減退について有効な対策が無く、外的要因による景気向上も見込めない。		
衣料品専門店（経営者）	・10月中旬まで残暑が続くとの予報が出ており、9月からの秋物商戦も期待できず、現在の悪い状況は変わらない。		

衣料品専門店（経営者）	・政局の混迷や日本の景気実態に伴わない円高が続き、先行き不透明な状況であり、特に地方は景気回復の見通しがたたない。また、各種補助金制度が終了した時点で、購買力の反動減が懸念される。
住関連専門店（経営者）	・不採算部門のカットやリストラによる経費のカットにより体質を変えているが、今後の人口減少等を考えると、明るい希望が持てない。
住関連専門店（経営者）	・例年であれば秋商戦に入る時期だが、今年は猛暑のため、家具などの耐久消費財の動きが鈍くなることが予想される。また、住宅版エコポイントやリフォーム減税の恩恵はまだ出ておらず、しばらくは現在の状況が続く。
住関連専門店（経営者）	・個人消費は冷え込んでおり、我慢できるものは我慢して、必要なものはなるべく安く購入しようとする消費者の傾向が見受けられる。急激な売上上昇は見込めず、現在の状況はしばらく変わらない。
その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・一部の商品に動きがみられるものの、物販全体を押し上げるような回復は期待できない。
その他専門店〔食品〕（経営者）	・天候が落ち着き、秋の気配が感じられれば動きが出てくると期待している。
その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・暑さが当分続くとみられ、秋冬物はあまり期待できない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・これから石油製品の需要期に向かうが、景気全体が低迷しているため需要を上げるような動きがなく、回復の道筋がみえない。天候次第で需要が左右され、収益回復が不安定な状況が続く。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・客の購入量に毎週変動がみられるのが気になる。元売りからの価格変動分を商品価格に反映できないので、現在の状況はしばらく変わらないことが予想される。
一般レストラン（経営者）	・良くなる材料が見当たらないので、来客数が少なく客単価も低い現在の状況はしばらく続くことが予想される。
スナック（経営者）	・人が出てくる要素も見当たらず、売上は横ばい状態が続くことが予想される。
観光型ホテル（スタッフ）	・プランによっては客が来ており、客足も秋風が吹けば多少は回復すると思うが、前年比を上回るのは厳しい状況が続くとみられる。
観光型旅館（経営者）	・例年9月は閑散期であり、10月、11月の紅葉期も2週間程度しか集客が期待できない。さらに、夏の猛暑により紅葉の色づきが悪くなる傾向があるなどの不安材料もあり、このまま低調な状態が続くことが予想される。
観光型旅館（スタッフ）	・個人客の予約状況は、休暇の多様化やネットの普及から直前まで把握しきれず、団体客の動きも活性化は期待できない。
都市型ホテル（経営者）	・単価の下落に歯止めがかからないことが予想される。来客数については、料飲施設において特にランチタイムの出足が鈍くなっているが、暑さが落ち着けば改善されるのではないかと期待している。
都市型ホテル（スタッフ）	・8月下旬のチャペルのリニューアルオープンにより、この先、プライダルの獲得数が伸びることが予想されるが、同時期に競合のゲストハウスがオープンするので、一人勝ちの状況には持っていけない。
都市型ホテル（スタッフ）	・売上の柱となる婚礼件数が全く伸びない上、円高や政治不信等により一般宴会も期待が持てない。
旅行代理店（店長）	・個人旅行の主力商品となる交通と宿泊等の企画商品の先行受注は回復しないが、海外旅行は円高により相談件数が増えている。総取扱高で比重の高い国内旅行で回復しなければ、全体の取扱額は減少となるが、団体旅行の先行受注が比較的順調なため、販売額は変わらず推移する。
旅行代理店（従業員）	・政府が景気対策を行わなければ、現在の状況は変わらない。
タクシー運転手	・仕事がないという話をよく聞くが、そのような状況が続く限り、景気を上向きにさせることはできない。
通信会社（営業担当）	・今後、少しずつ新幹線延伸開業に向け盛り上がり期待できるものの、それ以外に上向き要素が見当たらない。
通信会社（営業担当）	・景気回復に影響を与える材料は見当たらない。
通信会社（営業担当）	・国の景気対策が目に見える形になっていない。
観光名所（職員）	・明るい材料は見当たらないが、これ以上の落ち込みもないような状況にあるので、今よりは悪くならない。

やや悪くなる

一般小売店〔茶〕（経営者）	・新聞では報道されていないが、市内の個人商店などは減少傾向にあり、今後も厳しい状況は続く予想される。
一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・現在進行している円高や株安が、3～6か月先に個人消費を抑制するあるいは冷やす要因になることを懸念している。
百貨店（売場主任）	・今後、気温が例年より高めに推移する予報が出ているので、秋冬物の動きがどうなるのか不安である。
百貨店（広報担当）	・急激な円高、株安、残暑などのため、厳しい商戦が予想される。
百貨店（営業担当）	・9月も気温が高い傾向がしばらく続くため、秋物の動きが鈍くなり、販売する期間も短くなると予想される。
百貨店（経営者）	・暑い夏の影響で、消費者の意図しない出費がかさんでおり、その反動による消費の落ち込みが予想される。
百貨店（売場担当）	・9月以降も暑さは続くと思われるなか、担当する婦人服部門においては、夏物在庫はなく、秋物は動きが鈍いため、来月の秋物商戦は厳しくなることが予想される。秋物が売れずに冬物へと流れていくことを懸念しており、9月も着用できる秋物やセールで対応していく。
スーパー（店長）	・10月からたばこ増税を控え、特需の反動減が気かりである。
スーパー（店長）	・高単価商品の売行き不振は今後も続くことが予想される。また、野菜の不作による高値予想が悪い状況を作り出すことが懸念される。
スーパー（店長）	・残暑による一般家庭での光熱費の増加に加え、節約ムードが高まることで、景気が後退することが懸念される。
スーパー（営業担当）	・家電エコポイントの駆け込み需要による家電業界や製造業の好調が予想されるが、このまま円高の状態が続けば、製造拠点の海外への移設等により地域の製造業へ与えるダメージが予想される。
コンビニ（経営者）	・たばこ増税に伴い、9月は駆け込み需要が期待できるが、10月以降は禁煙者が増加することも予想され、かなり落ち込むことが懸念される。たばこは売上の18～20%を占めており、かなり厳しい状況になる。
コンビニ（エリア担当）	・今夏の猛暑も秋口以降は落ち着くとみられ、売上は前年比でみると縮小に向かうことが予想される。
コンビニ（エリア担当）	・10月からのたばこ増税の影響で、来客数は減る見通しである。
コンビニ（店長）	・建設関係の客が減っているのに加え、客はより単価の低いものを購入する傾向にあり、状況が好転する見通しがたない。
衣料品専門店（店長）	・残暑が厳しくなれば、秋物の動きが鈍くなることが予想され、厳しい秋冬商戦を迎えるのではないかと危惧している。
衣料品専門店（店長）	・長期予報どおりに残暑が続くようであれば、秋物の立ち上がりが遅れ、販売期間が短くなる、又は後ろにずれ込み苦戦することが予想される。
衣料品専門店（店長）	・9月中旬まで猛暑が続くと秋物の立ち上がりが遅れ、売上に大きな影響が出てくることが予想される。
衣料品専門店（総務担当）	・現在の好調は季節要因によるところが大きいので、この先も続くとは考えにくい。
家電量販店（店長）	・政治の不安定と円高による株価の下落が続いており、景気が上向き見通しがたない。
乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金により需要を先食いしており、今後は新車の投入ということだけでは売れなくなることが予想される。
乗用車販売店（経営者）	・10月に投入される新型車でカバーはできるものの、エコカー購入補助金が終了する10月以降の受注の落込みは避けられない。
その他専門店〔酒〕（経営者）	・天候が影響している現在の勢いは一過性のものに過ぎず、さらに、10月からはたばこの値上げが販売量及び売上に大きく影響することが懸念される。
その他専門店〔靴〕（経営者）	・残暑がきつくと、季節商材に例年並みの動きが期待できない。
その他専門店〔酒〕（営業担当）	・円高等の様々な不安要素が消費者の生活防衛意識を強めており、財布のひもは一層固くなることが予想される。極端な形でないにしても、ゆっくと客単価の下落と来客数の減少が進むと考えられる。
一般レストラン（経営者）	・政府による対策は何の手も打たれていないし、景気が良くなる要素が見当たらない。

		一般レストラン（経営者）	・伝統的なやり方で消費者の要望にこたえるのは難しくなっており、現行の営業内容を変えながら様子を見ていく状況が続く。
		一般レストラン（支配人）	・円高、株安の影響で企業業績が落ち込み、年末にかけての宴会需要の更なる悪化が懸念される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新規開業した競合の大型施設へ客が流れており、先々の予約状況も厳しくなっている。
		通信会社（営業担当）	・海外市場が更に悪化する傾向にあり、国内市場にも影響が出てきているため、販売量の落ち込みが予想される。
		通信会社（営業担当）	・円高の影響等による先行き不安で、リーマンショックのときのような状況になることを懸念している。
		通信会社（営業担当）	・エコカー購入補助金の終了等、政府による景気対策も一服感がある。景気回復への期待感強いものの、守りの姿勢を数年維持している状況から、好況に転じる要素が見当たらない。
		遊園地（経営者）	・前年のような9月の大型連休がない分、実績は上がりにくいですが、イベント等を計画して2年前並みを確保することを目指している。
		美容室（経営者）	・内需拡大の施策が実行されていないことや円高の影響により、現在の状況がしばらく続くことが予想される。
		設計事務所（経営者）	・9月以降は例年受注量が減っているが、今年は一層厳しくなると予想される。
	悪くなる	商店街（代表者）	・客足の回復に打つ手もなく、先行きに不安を感じている。
		商店街（代表者）	・消費者の節約志向は強く、買い控えの傾向が続くことが懸念される。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・10月からのたばこ増税による売上の落ち込みが懸念される。
		スーパー（経営者）	・物価の下落、デフレ及び円高の進行により、販売量、販売額の低下が懸念される。
		コンビニ（エリア担当）	・商品の販売動向を見ると、現状の売上増は猛暑によるものであり、景気が良いことによって客の購買意欲が上昇しているとは考えにくい。過剰な円高、株安等、経済全体の先行きも不透明であり、景気が自然に良くなっていくには感じられない。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金終了後、30～40%前後の反動減が予想されている。また、昨今の政局不安、円高、株安等によって、客の様子もずいぶん変わっている。新車販売においては、エコカー減税だけでは、十分なお買得感を訴求できず、需要喚起にはつながらないと考えている。市場は乱れ、各販売店の体力消耗戦になるのではと懸念している。
		乗用車販売店（経営者）	・補助金効果によるエコカー需要が大きかった分、反動減も大きくなると予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金の終了による新車販売の落ち込みが懸念される。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金の終了により、購買意欲が低下する。
		乗用車販売店（経営者）	・納期の面で補助金に間に合わない車種が出てきており、そういった車種は客の検討対象から外され始めている。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入補助金の終了後は需要が落ち込むことが予想される。
企業動向関連	良くなる	食料品製造業（総務担当）	・猛暑の影響も落ち着くことに加え、需要期に入るため、例年並の売上が期待できる。
	やや良くなる	農林水産業（従業者）	・前年は果樹全体が非常に安値だったが、この夏は猛暑で桃が高値で取引されており、農協出荷の清算書に期待が持てる。
		その他非製造業〔飲食品卸売業〕（経営者）	・現在、秋冬に向けた商品の販売を始めており、前年より多く出荷しているが、残暑が厳しければ、販売量の増加には結びつかないことも予想される。
	変わらない	農林水産業（従業者）	・天候に恵まれ米は豊作の見通しだが、一方で農協買取価格が下がることが予想される。
		食料品製造業（総務担当）	・現状が好転する材料が見えない。
		木材木製品製造業（経営者）	・関東を中心とした住宅需要が2～3か月は順調と判断されるため、現在の状況が続く。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・新しい商品の開発はしているものの、販売までには至らず、プラスに転じる要素が見当たらない。
		建設業（企画担当）	・年内の工事案件は、現状の件数が見込まれ、2～3か月先の状況は変わらない。

		<p>広告代理店（経営者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線延伸開業に関連し、印刷物は若干増えるが、全体的なボリュームダウンや価格下落との差し引きで、結局は変わらない見通しである。</li> </ul> <p>公認会計士</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円高やデフレ傾向、公共工事の減少、消費者の購買意欲の減少といったこともあり、景気回復の材料が見当たらず、この先2～3か月で改善するとは思えない。</li> </ul> <p>その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食店の低価格化が進み、単価の圧縮が顕著である。販売量は増えるものの売上は増えず、中規模業務用小売店の経営を圧迫する状況が続く。</li> </ul> <p>その他企業〔企画業〕（経営者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行関連の業種では円高が良い影響を及ぼしているが、輸出関連はかなり厳しい状況になると予想される。</li> </ul> <p>金属工業協同組合（職員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円高の輸出への影響から更なるコストダウンの要請が懸念される。また、正式発注から納品までが超短納期となっており、その対応コストが大きいため、受注に結び付きにくくなっている。</li> </ul>	
やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社は地元客よりも県外客の割合が高いため、9月の大型連休もなく、ETCの割引効果も薄れてきた今年は、前年ほどの来客数は見込めない。</li> </ul>	
	食料品製造業（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月の大型連休で大きく売上が増えた前年に対し、飛び石連休が多い今年は、前年ほどの売上は期待できない。</li> </ul>	
	電気機械器具製造業（営業担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大手でさえ、忙しいが利益につながらないという状況にあるなかで、中小は更に厳しい状態になっていくことが予想される。</li> </ul>	
	電気機械器具製造業（企画担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社としてはまだ直接の影響は受けていないが、海外向け製品も多く取扱っているため、今後は円高、株安の影響により、業績の悪化が予想される。</li> </ul>	
	建設業（従業員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共投資は減少し、民間設備投資は新しい検討案件がないため、受注減少が懸念される。</li> </ul>	
	通信業（営業担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、既存契約の更新における入札案件の落札には、かなり厳しい対応を迫られる可能性が出てきている。</li> </ul>	
	広告業協会（役員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猛暑による消費の減退で、広告費を抑える大型小売店なども出てきており、先行きの悪化が懸念される。</li> </ul>	
	広告代理店（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流通関連はこの暑さで秋物の動きが鈍く、携帯電話など通信関連も秋に向けて目立った動きが見られない。</li> </ul>	
	新聞販売店〔広告〕（店主）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税の問題で消費者の財布のひもが固くなっており、売上の減少は続く。小規模零細企業、特に自営業者への打撃は計り知れず、景気が良くなるとはとも思えない。</li> </ul>	
	経営コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治の混迷や異常気象、株安、円高など、景気を悪くする要因が続く。</li> </ul>	
悪くなる	一般機械器具製造業（経理担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車部品については、エコカー購入補助金の終了により、国内需要が急激に減少することが予想される。加えて、円高が続けば輸出環境は更に悪化し、業績に悪影響を及ぼすことが懸念される。</li> </ul>	
	コピーサービス業（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の円高により、民間経営、特に輸出にかかわる製造業等は悪くなる可能性がある。民間経営が悪くなれば我々の業界も悪くなり、見通しは暗い。</li> </ul>	
雇用関連	良くなる	人材派遣会社（社員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人継続して行っている企業や新卒の採用を再開する企業が増えており、今後動きが良くなることが期待される。</li> </ul>
	やや良くなる	職業安定所（職員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有効求人倍率が、一進一退を繰り返しながらも0.3倍台になるなど、明るい兆しがみえつつある。</li> </ul>
	変わらない	人材派遣会社（社員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円高の影響もあり、現在の状況が好転すると感じる材料が見つからない。</li> </ul>
		人材派遣会社（社員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人数、雇用数が増えない限り可処分所得は増えず、景気回復は望めない。</li> </ul>
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主党の党首選等で政治的にも空白状態が続いており、そのあおりで物が動かなくなっていることは否めない。ただ、求人に関していえば、現在底状態になっており、今後は多少は向上することが期待できる。</li> </ul>
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暑い夏が続き、観光、サービス業等の関連業種はプラスに働いているようだが、製造業などは相変わらず派遣中心で正社員の募集は少ない。円高株安の動きもあり、県内輸出企業関連の先行き不透明な状況はしばらく続くことが懸念される。</li> </ul>
職業安定所（職員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製造業からの求人が増加傾向にあるものの、先行きに対する不透明感からか、雇用形態は有期雇用が多いなど、慎重な姿勢が続いている。</li> </ul>		

	職業安定所（職員）	・新規求人数は前年同月比で2か月ぶりに減少に転じ、月間有効求人数は相変わらず減少傾向が続いている。有効求人倍率はここ数か月緩やかに下降傾向が続いたが、一転上昇している。今後の動向について予断を許さない状況であり、注視していきたい。
	職業安定所（職員）	・休業などの雇用調整が引き続き実施されることが予想される。
	職業安定所（職員）	・有効求人数がリーマンショック前と比べ圧倒的に少ない。加えて、有効求職者数も依然として多く、失業期間が長期化している。
	職業安定所（職員）	・有効求人数は4か月連続で前年を上回っているものの小幅な伸びにとどまっている。短期の求人が多く、常用が増加していないことから、この状態がしばらく続くと予想される。
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・求人企業と求職者の意識の乖離がミスマッチや士気の低下につながっており、企業全体としての競争力低下に拍車がかかることが懸念される。
	アウトソーシング企業（社員）	・同業他社も同じような状況にあり、回復の兆しがみえない。
	職業安定所（職員）	・新規求人は増加しているものの増加率は低調であり、新卒者向けの求人は低調である。
	職業安定所（職員）	・不況により節約ムードが続いているため、各種販売業においては、主力商品の売行きが前年から悪化している事業所が多く、回復の兆しがみえない状況が続く。
	職業安定所（職員）	・エコカー購入補助金の終了に伴い、自動車関連が落ち込むとの見方が強くなっており、景気全体の落ち込みが懸念される。
悪くなる	人材派遣会社（社員）	・次期国会で労働者派遣法の改正が具体化されることにより、企業における外部人材の活用意欲は更なる減退が予想される。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・取引先から仕事縮小の打診があり、受注の落ち込みが懸念される。